

1-10

経管栄養(胃瘻)から経口摂取が可能になった一事例

食べることは生きること 生きることは食べること

多職種協働

残存能力の活用

特別養護老人ホーム ヨコタホーム

介護職員 平野紗央里

看護職員 島田和代

東京都福生市福生 2300 番 4

管理栄養士 渡久地幸子

TEL 042-553-6633

E-mail sakoda@mokuseikai.or.jp

FAX 042-553-6686

URL <http://www.mokuseikai.or.jp>

施設またはサービスの概要

特別養護老人ホームヨコタホームは平成 8 年 4 月に開設され、入所定員 100 名・ショートステイ 6 名の施設です。2 階と 3 階にそれぞれ 50 名とショートステイの方が生活されています。ホームの平均介護度 3.8、平均年齢 83.1 歳。

<取り組んだ課題>

開設後 12 年が経過し、利用者の平均介護度も年々上がってきています。そういった中で、嚥下能力が低下し、経口摂取がうまくいかず、胃瘻造設して退院する方が増えております。

今回、胃瘻造設して退院された利用者が、チューブに対する違和感を強く行動で示されたこと、「食べたい」という本人の言葉から、利用者の生きようとする力と言葉を発することから嚥下能力が残っていることを判断し、看護・管理栄養士・介護が協働して、経口摂取に向けて安全を第一に取り組み、成果を得ましたので報告いたします。

<具体的な取り組み>

平成 20 年 3 月：胃瘻造設して退院

- ・ 本人の訴え「お茶が飲みたい」
- ・ 経口移行が可能であるという判断（医師）
- ・ 本人・家族への説明（生活相談員）
- ・ 水のみ検査実施（4 月 16 日 管理栄養士）
- ・ 嚥下、経口移行に関する勉強会の実施
- ・ 多職種間のミーティング（随時）
- ・ 経口移行についてのプラン作成（管理栄養士）

<活動の成果と評価>

経過	成果・評価			
	体温	SP02	むせ等	備考
ゼリー摂取 4/19～ 1 回 60g を 3 回	36℃ 台	95% 以上	なし	自力摂取する。 誤嚥無く安全に 召し上がる

経過	成果・評価			
	体温	SP02	むせ等	備考
3 食ゼリー食 5/22～ 摂取量少ないときは、 経管栄養注入	36℃ 台	95% 以上	なし	経管栄養併用しつつ、 経口摂取継続する。
昼食のみ 粥・ミキサー 6/1～	36℃ 台	95% 以上	なし	自力にて全量摂取する。
6/20 胃瘻チューブ抜去。6/21 経口にて水分摂取試す。				
水分経口摂取 6/21～ 冷水のみ 1 回量 50cc を 1 日 10 回	36℃ 台	95% 以上	なし	誤嚥無く安全に 500cc 摂取。
3 食 粥・ミキサー 6/25～	36℃ 台	95% 以上	なし	15 分程度で全量 召し上がる。車 椅子を自走。

<今後の課題>

- ① 経管栄養から完全に経口に移行する上で、気分不快や「御飯が食べたい」「パンが食べたい」といった本人の様子や思いにつながる記録が少なかった。今後、同じような取り組みをするときの参考にするためにも、言葉や行動、様子を正確に記録する必要性を感じた。
- ② 今回の取り組みでは経口摂取が進むにつれて、行動範囲が広がってきた。経口摂取への取り組みだけでなく、それに伴う行動変化へを予測したケアの必要性を感じた。

<参考資料など>